明治廿五年九月三十日印刷
明治廿五年十月五日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第參拾四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌
第參拾四號
目次

講演

◎小兒の死亡に就て　醫學博士　河本重次郎君
◎食物の料理及鍋類の分析　中濱醫學博士
◎浴場行日誌　醫學博士　佐々木政吉君

衛生叢談

◎草刈
◎電話機傳染病媒介
◎年齢と男女の關係
◎長壽は勞働者に多し
◎死亡と職業の關係
◎本會錄事
◎保育園報告
◎會告

◎本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き随て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は毎月一回第一土曜日集會を開き諸大家を聘し講義演說を囑し會員は勿論同親族知己の傍聽を許し且之を筆記して毎月會員に頒つ

◎本會會員を分ち終身特別通常學生男子賛成員とす

◎終身會員は入會の節金拾圓以上を収むる者特別會員は毎月貳拾錢以上通常會員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子賛成員は毎月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せず族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十三番地本會事務所へ御申込わるべし

下谷區練塀町四十三番地
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第參拾四號　明治廿五年十月五日發兌

講演

◎小兒の死亡に就て（六月四日大日本私立衛生會集會室に於て）

醫學博士　河本重次郎君演説

私は小兒の死亡と云ふ事に就て御話しを致さふと思います。是れは衛生の御話しと云ふ譯には參りませんが、小兒と云ふものはどう云ふ風な關係で死すると云ふ事を御話したら、自然衛生上にも關係致すことゝ思いますから、此御話しを仕様と思います。

第一に元來子供が生れるに就ても、女子より男子の方が多く生れますが、從つて死亡するのも女子より男子の方が多い。又た已に死で生れるのも男子の方が多い、生れても一年二年三年は男の方が余計に死ぬ。同人數の中、男の子が四十四人死する者なれば、女の子は三十六人位ゐの割合で御座います。どうして女より男の方が餘計死ぬと云ふ原因は未だ確とは解りませぬ――日本でも能く申す事で有りますが――西洋の「わりすと」と云ふ人の言ふには、男は頭が大きくて、生れるのに困難で有るから從つて多く死ぬので有らうと申しましたが、併し此れが眞の理由で有るや否や明かに解つた事で無い。又死するに就きましても、總て子供の死するのは生れてより一年の間が一番多い、又月に照しても生れた月が一番多く死ぬ、それから日にして見ましても……日本國の子供の死亡を調べて見ますると、生れた即日に死するのが一番多う御座います。さうして見ますると男は生れる數も多く、又死する數も非常に多い、男子は女子より數にしては生れて來るのも多いが、漸く日月を經るに從つて、死する者が多いから、終には男子が平均數になりて仕舞う。是れは日本ばかりでは有りません、各國何れに於きましても男子は多

く生れて、多く死亡する故平均數になるので御座います。唯女の方は中年に至りますと、産と云ふものが有る爲め死亡者を增します、殊に日本の如き良い産婆の少ない處では、勢い産の爲めに死するものが多くなる。一寸別な御話しになりますが、我日本國抔は地方に往つて見まするとゝ、婦人科産科の醫師は殆ど一人も無い位いで御座います。某産婆の話しに、其産婆は大分の者で御座いますから、大分に歸りて産婆を始めたけれども、肝心の産科醫が一人も無いから、何にもならないと申しましたが是れは實に尤もの事で御座います。

第二にそれから國に因つて、小兒の死亡の多い處が御座います、例之ば歐羅巴の北の方の諾威と云ふ國では生者千人に就て死亡する者が三十六人位ゐ、又南……の方では千人に就て十人位ゐで御座います、其土地に依りまして多少違ひが御座います。一體諾威と云ふ國はどう云ふ風俗の土地で御座いますか、其原因を尋ねたなら必ず有るで御座いませう。

第三に私生の子と通常の子と比較しますると、通常の子百人に就て十三人の死亡者なれば、私生の子は百人に就て三十人の割合で御座います。それは胎内に在る中の母の養生法、幷に育て方等の惡い所から勢ひ死するものも多くなる。私生の子と通常の子と比べて見まするとゝ、生れてから三ヶ月の間は私生の子の方が多く死ぬ、併し三ヶ月經つて後は別に相違は有りません。どう云ふ譯かと云ふに、私生の子は育て方が惡いから、性質健康の者は生きて居りますが、弱い者はそれまでに死んで仕舞う、それ故三ヶ月後は通常の子私生の子も同じになるので有ります。

第四に田舍と市街とに於ても小兒の死亡數が違ふ、市街は子供の死する事が田舍より多い。此原因は申

す迄もなく御承知で御座いませうが、市街は第一に空氣が不潔で御座いますし、加ふるに貧乏人も多い、それのみならず市街に於きましては自然と私生の子も多い、夫等の原因より致して子供の死するのも田舎より多いのです。今一例を擧げれは、英吉利の倫敦に極て貧乏の町が有る、そこに「ビイブーデー」と云ふ人が有りました。此人は慈悲深い人で御座いまして、此貧乏の町に一の大なる工場を建て、此貧乏人を使ひました、然るに此工場の職人の子供と、此工場に來ない人の子供とを比較すると、其死亡に於て殆ど倍の差が有る、工場にも來ない貧乏人は育て方等も不完全で有りますから、勢ひ死亡者も多くなるのです、其職工場に於て職業を爲して居りますれば給料も取りますし自然育て方も宜くなりますから、死亡者も減ずるのです。それ故是等の事も良方法を立て致して參りますれば斯う云ふ變動を來すで御座います。

第五には人間の種類によつて死人が多い——單に日本國斗りでは申されませんが——日本と支那とを比べると日本人の方が多く支那人の方が少く死ぬ或は支那人の方が多く日本人の方が少く死ぬとか云ふ樣に、同じ土地に、同じ生活をして居る者で一方は健康で一方は死亡する者が多いのは人種に依ての差で御座います。

第六には季候、八月が一番余計子供が死亡する、十一月は一番少い、例之ば八月は三十六人死するものならは、十一月は二十五人位ゐで御座います。夏は空氣が熱い、空氣が熱いと人間に最も必要なる酸素と云ふものが薄くなッて居りますから、勢ひ死人が多くなります、十一月が小兒の爲めに最好季候で有ります。

第七に地面の高低より申ますれば、鳥渡素人が考

へて見ますると、山の下より上の方が空氣も淸く、身體にも好いと思ひまするが、其實山の上と山の下とを比較して見ますると、山の高い處に住つて居る者には死ぬのが多い、却て低い處は少い、何故かと云ふに高いと空氣が薄いから息が切ます、高い處より低い處の方が宜しいのです、詰り衛生の上から申せば山の上より海邊が善いのです。

第八に養ひのことは委しく申さずとも、幾回も御聽きに成りましたらうから、御承知で御座いませうが、第一に母の乳、乳母の乳、牛乳、――牛の乳の無い時は人造の物が宜しい――先程保育園の御談しが御座いましたから一寸申しますが、小兒を保育園に於て育てると云ふ事は佛蘭西で致します事ですが、日本では些と六ケ敷い、一体佛蘭西と云ふ國は妙な國で

歐羅巴の内でも殊に佛蘭西は親と子との關係が日本の樣に密着て居らぬ、其證據には佛蘭西の人は子供を病院に連れて來ましても、置いて往けと云ふと直ぐに、置いて歸ッて仕舞ひます。又佛蘭西抔では夫婦で店を商ひ、夫婦で職業をして、所謂夫婦共稼ぎで一家を立て居るのですから、勢ひ子供を乳母に託さなければならぬ。佛蘭西の巴里と云ふ處には乳母を傭つて置いて子供を預り育てる處が大變に在ます。又里子に遣る事も流行する。其里子の成育の有樣はどうで有るかと云ふに、小兒百人の中七十人死亡すると云ふのは些と言ひ樣が多過ぎはせぬかと思はれますが、大抵それ位ゐの割合で御座います。巴里の中央に在る保育園では其始め小兒の死亡するのが非常に多く、佛蘭西政府でも大に困却して、此の保育園を政府で監督する事にしたら大變に死亡數が減じました。もう一つの方は醫師が怠らず保護して居りました故に、從て死亡は少なう御座いました。夫故現在こそ保育園も善くなりましたが、政府で監督

せぬ中百人でも千人でも預るので御座いますから、從つて死人も多かッた。佛蘭西の或る縣地に往つて見ますると、里子のみで大なる墓所が出來て居ると云ふ事で御座います、大袈裟の樣にも聽ゑますが實際の事であるのです。

第九にそれから乳の事に就て御注意申さうと思ふのは、乳母の乳、牛の乳も良として置て、實際日本の有樣は牛乳は價格も高い、殊に地方には牛乳の無い處も有る。私の病院に連れて來た子供は眼が潰れて痩せて居る子供ですが、牛乳をどの位ゐ飲ませると聽きましたら一日に三錢か四錢で御座いますと申しましたが、三錢か四錢の牛の乳が純粹の乳で有るかと云ふに、貧乏人に賣る乳は、貴婦人方の御宅に持つて出るのとは大違ひで、水が倍も增して在る、故に牛の乳も善い物には違ひないが、注意しなければなりませぬ。況して田舍は牛の乳が無く、乳母も無く亭主が育てるやうな場合には人造の物で育てるがよろしい。

第十に貧福の關係、どうしても富貴の人の子は能く育つ、或る人は貧乏人の子は健康で、富貴の人の子は虛弱と云ひますが、私は矢張り貧乏人の子の方が弱いだらうと思ふ。何故なれば、華族と貧乏人と比較しては可笑う御座いますが、例之ば貧乏人の子は幾人死んでも分らないが、華族の子は一人死んでも直ぐに分るから、鳥渡考へては華族の子の方が弱い樣で御座いますが一般から申せば矢張貧乏人の子兒の方が餘計死ぬに相違ない、又死なねばならぬ譯である。家は不潔で有るし風には當て置く、風は續々這つて居るし、どうしても死ぬ筈です。西洋の比較では、富貴の人の小兒が十一人死ぬものなれば、貧乏人の子は三十一人死ぬ。併し是れは良き方法に依れば死亡を減することが出來ます。獨逸の

「ミユールハウゼン」と云ふ處は多く織物を製造する處で（日本よりも種々の織物が往きます）工女も大勢居る、其中には亭主の有る婦人も有る。西洋では總べて斯う云ふものには日給であるから、勢ひ產が有らうが、子が生れやうが、一日も早く其處に來て働くので、從て子供の死亡抔も多い處から其地の「ドルフース」と云ふ人が、產をした婦人には日給は每日只で遣つて六周間休せて遣つたので、是れが爲め大に小供の死亡を減じたと云ふ話で御座います。斯う云ふ樣に良い方法に依れば貧乏人の子供の死ぬのを減ずることは出來ます。小供はどう云ふ病氣で死するのが多いかと云ふに、小兒の死するのは多く下痢、夏は小兒は餘計死ぬ、死ぬのは下痢、下痢は食傷から起る、殊に夏は牛の乳抔も腐り易う御座いますから、能く注意せなければなりませぬ。もう一つは腦膜炎、俗にヒキツリと云ふ病で御座います、歐羅巴諸國で數ふれば吐瀉、腦病で死するものが多い——ヒキツリの病人多く肺病筋の病ひからなる、——是れ等は營養を能くすれば幾分か減じませうが、併し親から子に傳ッたもので、已に生れる時より惡いものは仕方が無い。下痢の方は食物に氣を附ければ防ぎ樣も有ります。それは唯食物の方法さへ良ければ好い、併し廣田君抔に問ふて見れば、西洋に於ては日本より吐瀉の病が多い、何故かと云ふに西洋では多く牛乳を以て育てますから、此病ひが多いのですが、日本では重に母の乳を飲ませますから、幸に此弊が有りませぬので御座います。

以上は小兒の死亡に就ての大略を鳥渡申上げました。序でに鳥渡申上げますが……先達ても皆樣の子供の保護をする事を申し上げましたが、子供が生れるとどう云ふ風に洗ふかと云ふに、日本では湯で洗う。現在の洗ひ方は余程西洋の風を取ッて、小兒の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗ひ方抔は余程良くなつた、併し私は昔の風も今の樣で有つたかどうだか能くは存じませんが、他國には隨分面白い妙な風な土地が有ります。土耳其の近傍では子供が生れると鹽を水に溶して、生れた子供を鹽水で洗ひます。成程日本でも鹽は物を淸めると申して、穢ないものは鹽で淸めますから、矢張りそんな理屈から鹽で洗ふので御座いませう。西比利亞の北の方では寒國で御座いますから、後年子供か寒さに堪へる樣にとでも云ふ考へで御座いませうか、雪を水に溶して洗ひ、或は冷水で洗ふのが風俗の樣で御座います。最も可笑いと思ふたのは、亞弗利加の人民、即ち黑人種の國の「ポッテントッテン」と云ふ處は或人の言ふには、是れ程野蠻の人民は有るまい、是れから先きは獸より外は無ひと申しましたが、如何にも野蠻の風俗だらうと思ふのは、子供が生れると、(少し穢ない御話しで御座いますが)牛の便で子供を塗り付けて、其上に「バタ」を塗り付け眞黑にして仕舞ひます。亞弗利加の人は顏は黑い、毛は縮れて居る、どう見ても人間とは見えない、併し其色の黑いのは一の人種で、性來が他に異つて居るのです、其外國々で色々の法が有りますが、私の見て、最も奇妙だと感じたのは前の三つで御座います。

◎食物料理及鍋類の分折

（中濱醫學博士の大日本衛生會談話會に於ける話）

去年の九月でありましたか群馬縣で澤山に中毒したものがありました、凡そ六百人ばかり病氣になつて其内八人ばかり死んだ者があります、併しながら其れを解剖はしませぬが、吐出物を撿査致しました所が、其中に銅がありました、或は銅の中毒ではないかと云ふ疑がありました、其れは吐出物に銅がありましたから、益々銅の中毒ではあるまいかと疑

がッて、併し彼の銅の中毒といふ物は中々容易ではありませぬ、極く澤山の銅を食べませねば、人の死ぬ位の中毒は起りませぬ、慢性の中毒は少量でも起りますが、度々少量の銅を飲むと遂に中毒を起しますが、群馬縣にありました樣に僅か酢を食べたばかりで、其れが爲めに生命を落したと云ふ樣な、生命を害する程の劇烈な急性の中毒は餘程多量の銅をやりませぬと然ういふことはありません。銅は有ッたには相違ありませぬが、極く僅かにして之れで著じるしき中毒を現すどころではない、迚も人の生命を落すと云ふ樣な、劇烈の中毒は起さぬといふことは慥かですから、無論之は銅の中毒ではないと云ふことは分りました、所で其外に理由かなければならぬと云ふ所で私共が考へましたに、胃の内容に銅分のあつたのは中毒に關係なくして始終日用の何にか食物の中に澤山銅分の這入つてあつた者があつて、然うして知らず識らず建康の人でも亦病人でも之を食べて居りますと思ひまして、それからして東京に歸りまして其檢査を始めたら宜かろうと思ひ付きて、段々同僚などにも計ッて、檢査に着手致しました、此頃は略ぼ其局を結びましたから、其次第を此處で御話し致します、此檢査を致しましたのは私の同僚の山本君であります、東京の色々の料理屋からして料理を買ひまして其料理の中に銅かあるかないかを檢査致しました所が、最初の間は先づ下等の料理屋の食物を檢査しやうと思ッて、賤しい者の往ッて食べる料理屋に往ッて、總べての料理を取りまして試驗を致しました所が、ドノ料理屋でもドノ居酒屋でも、販賣致しまする飲食物の中に銅分のないはない皆な銅がある、淺草區で十ケ所程いろ〳〵のを取りました、其他普通の家からして貰ひまして其れも凡そ十何種程檢査を致しました、それからして

善い料理屋の名の響いて居る料理屋の料理をも撿査を致しました、此撿査は未だ終りませぬが、併し是まで凡そ二十種程撿査致しましたのに、一として銅のないのはありませぬ、私なども丸で銅を食べて居りまするし、諸君も食べて居るだろうと思ひます、尤も澤山の銅を食べるのではありませんが、誰でも食べて居ると思ひます、例へば百「グラム」中に含んで居りまする銅の量を申しますと、淺草區の或る居酒屋の鐵鍋にて煮た蒟蒻の中に、凡そ〇、一三「ミリグラム」の銅が這入ッて居ります、それから同人の宅に篠田卷と云ふ物がありました、其中に〇、四五凡そ半「ミリグラム」位の銅がありました、其他燒豆腐だの、蓮根だの、八ッ頭、マアどれとして銅のないものはありませぬ、之は全く銅の鍋を使はないで鐵鍋を用ひたと証明する人がありました、其れにも矢張り銅があります、之は鍋から來たか外の例へば砂糖や何からして銅が這入ッたか知れませぬが、兎に角銅が食物に這入ッて居りました、夫れ故に吐出物に銅がありました所から、直ぐに銅の中毒だと云ふて判斷をするのは實に危ないのであります、現に唯今御話を致しました群馬縣の或る病人などは、吐出物に銅がありましたが、銅の中毒だと云ふのも尤もなる話であります、銅の中毒と云ふのは隨分ありさうな話ですけれども、段々試驗に依つて考へて見まするど、日本中で銅を日々身内に取らない者はないと云ふて宜しい位であると思ひます、實にそれですから此極く少量の銅が人身に害があると云ふと、余程大事件でありますけれども、銅が幸に少量でありますから著しき害はなさぬ、著しき害をなさぬのはホンの外面で見ました所でありますから、ドノ位日本人の身体に害を爲して居るか量り難いのであります、銅に依ては隨分多量の銅を出すことも

ありませうし、料理に使ひまする品物に依ては餘程銅が鎔けて來て醋酸などを混じて料理する時は、餘程多量の銅が出て來ませう、之は鍋ばかりでありませぬ色々市中に販賣する匙だとか、何とか言ふものを見ますると、餘程惡い物が澤山あります、中には其匙を食物の中に入れて置き、翌朝見ると緑靑が湧いて居りまして、然う云ふ物を構はずに食用に供するとが澤山にありまして、現に私も此度大坂にて或る屈指の宿屋に泊りまして、然うして部屋の脇に湯を沸かしてある土瓶樣の者がありましたが、色が黒いから何んだか分りませぬ、黒い中に銅色が少し見へて居りますから、能く取て見れば極不潔の銅の湯沸でありました、それはどう云ふ譯か監督が行き屆かぬのか、又は古色を帶びて居る故に吝んで磨かぬのか、不斷手の當る所で其分部に銅錆が湧いて居りました、水には澤山には溶けますまいが其湯は迚も飮めませぬ、然う云ふ樣なことが度々でありまして、之は直接に衞生上に害がありませぬでも、殊に多量の銅を含むことがなくとも直接に害をなすことがあります、宿屋の監督が忽がせなる以上は料理などのことにも手落が其通りあらうと思ひますから、湯沸ばかりではなく便所から下水から飮用水から何から何まで少しも注意がないと思ひます、然う云う宿屋へは再び泊るまいと思ひました、これから此處に陳列しましたのは土鍋です、所が前申しました通り銅の鍋は中が白く塗てあるのがありますが、彼の白身は鉛でして飮食物に交る恐れがあります、故に土鍋を用ひたならば然う云ふ恐はあるまい、殊に價は安いし害があるまいと考へたから、土鍋を用ひますけれども時々此土鍋にも惡いものがありますから、そこで私の同僚が撿査致しました、此事は此間出版になりました衞生試驗彙報の第七に委しく出て

居りますが故に、之は委しくは此處で述べませぬが之は同僚の古川君が行ひました、此處に十七個種々の鍋だの丼だの皿の樣な物があります、所が奇体にも東京で拵えた物は宜しくない、東京で拵てた物は皆鉛が出て來ます地方で拵へた物は鉛が出ませぬ、唯東京で拵へた外に鉛が出たのは此淡路燒の丼であります、然かも是からして多量の鉛が出ました、同じく淡路燒の丸い小形の此中からして少し鉛か出ました、まう一つは淡路燒の大皷形の之れが代價が七錢五厘是れ等も極く僅か出ます、一番澤山出ましたのは淡路燒でありました、他は東京で拵へた物を除くの外は少しも鉛がありませぬ、東京で出來たのは四種試驗致しました、何れも鉛か出ましたが、本所で出來る三平鍋から一番澤山出ました、それですから銅鍋を用ひれば銅が出るといふ危險があるし、それじやと云ふて土鍋を用ゐてもいけませぬ、それでは何か外の物で煮て食はなければならぬ有樣でありますが、併しながら鍋を土で拵へたからと云ふて鉛があると云ふ譯ではないので、大坂、名古屋、三州等で拵へるものは決して鉛はありませぬ、殊に注意して燒釜や材料を精撰して拵へれば決して斯う云ふ樣なことはなかろうと思ひます、此鉛のことでも極く多量でさへなければ急性の中毒は起しませぬ、尤も少量の鉛がありましても隨分色々の鉛中毒を起して居るものがあります、既に名古屋の病院に一人俳優が鉛の中毒で這入ッて居ります、其他東京でラム子などを飲みますが、ラム子の中にも鉛があります、我々は銅と鉛に責められて居る樣な有樣であります、デ些細のことからして人身躰内に有毒ものがありまして大害を爲すそれですから、之は鉛が少しありましても之を用ひても構はぬでも宜しい、と云ッて等閑に付して置くと遂に大患を起しま

す、東京の様な大都會に住んで居りますと衛生上の害になる様なことが集つて來て、身躰を害しますから、人身の害になることは出來得べき丈は除けなければならぬと思ひます、之は諸君に於ても鍋の中々危險だと云ふことは少しでも除く手段を廻らすのは御互の務であると思ひますからして一言談話を致しました譯でありります、ドウか後で此鍋を御覽なすッて下さい。

◎浴場行日誌

右は醫學博士佐々木政吉〇〇〇〇〇〇の中外醫事新報へ寄送せられたるものなるか特に同氏に請ひて掲ろことゝはなしぬ

余客歳政府の命を奉じ、六月十九日獨京伯林に着し、玆々忽布氏淋布の研究に從事す、光陰矢の如く歳華流るゝに似たり、今や已に歸朝の迫るに逍ふ、是より前我政府我情願を容れ、特に二ケ月間の延期を與ふ、余嘗て以爲らく我帝國之を內にしては山脈蜿蜒し頗る礦泉に富み、之を外にしては四圍皆海なり以て海浴に適すべし、乃ち一たび歐洲浴場の結構裝置を一覽し以て參考の資に供せんことを希ふ、是に於てか歸朝の途次浴場巡覽を企て、其第一着として海水浴場に赴けり。

明治二十五年三月二十五日獨京伯林を辭す、午后二時十分ステチーチル停車塲を發す、伯林の友人ベック、原田、山極、嶋村、山根、西村、森、の諸氏特に我行を送らる友誼感ずべし、我れ諸友と共に麥酒を汲み互に其健康を祈り握手辭別す、伯林よりスウ井ーチミユンド迄の乘券を購ふ、蓋し有名なる海水浴場ヘーリンクスドルフに詣らんとするなり、ヅルホウに至る迄滊車速度最も駿なり、此所にて他車に移れり遲々裕々として滊力頗る緩なり、黄昏滊車は「ハウ」河上の長橋を過ぐるに當り、早春の景色模糊として烟の如く、一望平沙限りなく時に矮屋の

點々たるを見て坐に懐郷の感に勝へざりき。午後八時十分スヰーチムンドに着し「ホテル」ジュ「ノール」（北旅館）の馬車に乘ず、十五分時にして「ホテル」に着す、旅亭は可なるものに非ず、しかも室房極めて粗野なり、然れども其價廉（一室二麻）（一麻ハ凡我三十三錢位なり）なるを以て大に假借すべき所あり、九時晩餐を喫す給仕に問ふに此地の勝を以てす、答へて曰く是より半里許り燈臺あり、其他見るべきもの無しと、又問ふ海浴の装置見るを得べきか、曰く只今新築に着手し未だ完成に至らず見るも詮無かるべし、蓋し舊物已に腐朽して用に勝へざればなり、更に問ふて曰、余ヘーリングスドルフに至らんと欲す如何せば可ならんか、答へて曰く乘合馬車あり明朝六時四十五分此土を發す之に乘ずる最も便なりと、即ち明朝此乘合馬車に乘ずる事に決せり。

食後海濱に沿ふて散歩す、四顧寥々として行人甚だ稀なり、家屋は概ね一階或は二階にして其數尠なるものは一二新築の「ホテル」に過ぎざるべし、海濱には船舶輻湊し船夫呼應す、光景實に寂寞を極む、彼の馬車疾驅の喧囂を聞き、肩摩轂擊の街衢を歩し、行人絡繹の熱鬧を見て、繁華なる帝京伯林に住したるもの卒然此土に至れば、寒村僻邑に在るの感ありと雖ども、靜思之を久ふすれば外物の我を累するもの無く、心神爽快にして大に安きを覺ふ、況や海濱の空氣清涼にして住民の淳朴なるをや、此地三年前より街上に電燈の設立あり、清光煕々として輝き夜景一段の美を加ふ、スウヰーチムンドの名は地の形勢に依る「スヰーチ」河口に在るを以て此稱を取るなりと、住民漁業を主となし兼て石炭の貿買を營む、人口九千邑廳及び訟庭の設あり蓋し一小都會なり夜十時寐に就く。

三月廿六日　午前六時床を出づ天氣清朗なり、朝暾

の海濱に出づるを望み六時四十五分スウヰーヂムンドを發す、ショセ、ー街道を過ぎ兩側の森林（松及山毛欅多し）を望み、景色最も可なり、八時ヘーリングストルフに着し「ホテル」「リンデマン」に投ず、「リンデマン」は此地第一等の旅館にして伯林旅亭株式會社の所有に罹り、伯林皇帝旅館と稱する大旅亭に屬す、余か此「ホテル」に投せしものは浴場諸裝置を觀るの便多きを信じたればなり、主管をヘルマンと云ふ氏余の爲に周旋尤も勉め、浴場及近傍の嚮導を爲し殊に浴場裝置の目下見る事を得ざるものも、同人の紹介を以て見る事を諸事大に便宜を得たり。

ヘーリングスドルフの名此地の漁業にて鯡鯷を得る事尤も多きに由ると云ふ、獨語青魚を「ヘーリング」と稱し、「ドルフ」とは邑と云ふ義なり、聞く今を去る事百餘年の頃は此地海賊の潜伏したる巣窟なりしと、文化年に進み三十年以前より海水浴場を設け、爾來年を追ふて隆盛に赴き、今は人生の至重至貴なる靈寶たる健康を重んずるの大平謳歌の士女其体を養ひ、其神を爽かならしむるの一勝地となれり、甚しいかな事物の變遷實に測り難しと云ふべし。

青魚村人又呼んで海水浴場の眞珠と謂ふ、故ある哉其天然の地勢は造化の人を惠むに出たるものゝ如し、今先づ其地形の如何を記せん。

青魚村は獨國の北端オストゼーに在るウセトム嶋に屬す、北緯五十四度東經十二度（巴里ヨリ）に在り西北アルベックに連り、スヰーヂムンドに至る、前西コーペンハーゲンに對し、右岩は南に面し、左岩面北に位す、背面兩層の岡巒を繞ふ、天然の地形斯の如し、其西風多き所たるに拘らず岡陵の爲に支へられ、東風は之を防ぐ能はすと雖へども、幸にも吹くこと稀にして烈風地を捲くの勢なし、青魚村前

に大海を扣へ、後へに岡陵を繞らす、坐がら山海の勝を兼有す、其風光の明媚なる其佳望の富瞻なるに加ふるに氣温激變なく空氣淸涼にして、散歩運動の準備至れり、其人の心身を樂ましむる果して如何ぞや、復得難きの勝地と云ふべし、今海水浴場の裝置を記せん。

（以下次號）

衛生叢談

◎草刈

是れは或る田舎の憶病者のはなし、長閑なる日和に野邊に出で丶せつせと草を刈りけるが、中頃鎌の刃鈍くなりけるま丶小溝へ參りて砥石の片もて頻りに鎌を研ぎ上げ、刃も鋭くなりたれば再度元の場所へ返り來り、日陰もはや避ければ精を出して刈り盡さんものをと、鎌取りわげて一薙なぎたりと思ひきや、自身の脛へいと深く切り込み骨も中絶したる樣子、生命にも係わる事と思ひけるが、其傷に氣は遠く殊に人事も辨へずなりぬ、此時連れの人とては一人もなく誰れ介抱する者もなきを以て、何時となく時刻も移り夜露顔を濕して初めて已れに歸り、先きのことなど考へ見るに、自身は脛を切り迚も生命覺束なしと思ひおりたるに蘇生したるは誠に仕合、さるにても如何して家に戻らんかと思案しつ丶疵口を抑へ居たる手を除かに取り放し見たるに、不思議や生命も危しと思ひたる疵は何處にも痕を止めず、拭ひとりたる樣に癒へ推せど破けど別に變りたることもなし、是こそ佛の冥助にやと雀躍つ丶刈り溜めたる草を籠に收め、歸りて先きの顛末を老人どもに話しけるに、老人共大にわらひ何んでさることのあるべきやと云ひけるに、此女中々承知せず却て腹立てにけり、老人又笑ひて疑はしくば鎌の刃を點撿べ見るべしと云ひければ、さらばとて鎌の刃を見れば少

しも血の跡も見えず、鎌は砥石を離れ放り出してありたれば自からも其怯なるを恥しとかや、神經過敏にて一寸とのことにも物事を苦勞にする人は無用の事に思慮を煩はし、病人はそれが爲めに病苦を増し、虚心平氣の人は躰も壯健に心身爽快を感じ圖らざる幸福を受くることあり、あまり物事を過度に心配することは心身の上に大害ありて、心配したるほど事の成就せぬものなれば心配は余りせぬものなり。

◎電話機の傳染病媒介

肺病の人も、腸窒扶斯の人も、車夫も職工も入り代り立ち代り、一の電話機に口をつけ、吐きたる呼氣の送話口に殘れるは知れたこと、殊に炎熱甚しき夏の季節にありては、殘り留まりたる呼氣に一種快もちの惡しき臭氣を發すべし、斯く數十人相受くるため送話口に附着きたる汚れたる呼氣は、或る種類の傳染病にありては病毒傳染の媒介をなすよしなれば、使用する者は注意せざるべからず、去六月刊行の紐育發兌メジフカレコードを觀るに此の事に付き左の如く記載せり。

電話機の送話口を數人相次で之を使用するは、傳染の憂ありとは嘗て人の空論的に論せし所なりしが英國醫學雜誌の通信者は此の如きことの實際にあることを報せり、英國の衛生局員アンダークン氏は左の如き答辨をなせり、人若し傳染種の咽喉病ありて口を該機に密接する時は、肺より咽喉よりの談話及呼氣作用によりて傳染病を該器に附着せしむる者と確信す、余の考案に由れば該機の如き人類の呼吸に曝さるゝものは、其機の公設私設を問はず屢々掃除するを要す、之れに使用するものは溫湯及び石炭酸を以て足れり云々。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎年齢と男女の健康

我邦にて男女の數は歐米各國に反し、男子の數多くして大約男百人に女九十七人許の割合なり、而して其百年の間に於ても殆んど一定せる如き割合を以て消長し、女子の割合三四歳より漸く高まり、男百人に女九十七八人にて以て十五六歳に至る、而して十七年よりは女子の數次第に減じ、三十歳前後にて九十四五人四十歳前後にて九十二三人となる、是れ其減少の極なり、去れど五十二三歳に至れば忽ち九十六七人の割合に復り、五十五六にて男女相平均くなり、六十歳よりは女子男子を超ゑて男百人女百二三人の割合となる、これより女子の數非常に多くなり、八十七八歳にては殆んど倍し、九十七八歳にては遂に三倍に近くなるなり、顧ふに婦人の健康は生産期に於て最も衰へ、殊に四十歳前後の生産は最も多く、之を死亡せしむるものと知る、然れども一旦此期を過ぐれば其健康なること大に増加し、男子よりは一般に長生するもの多きを常とするに似たり。

◎長壽は勞働者に多し

此頃近江の國大津日野町中井、原等の諸氏發起にて、同町の高齢者七十歳以上のもの七十三名を聘し、尚歯會を開きたるが、今其高齢者の生業と身分につき中井氏の調査したるものを聞くに此高齢者四五名を除くの外は、先祖の財産を受け安逸座食したるものなく、孰れも元は農工商の業に從事し、麁衣粗食にて勞働をなし、一家を興し漸く老を養ふに至りたるものゝみなりと、左すれば錦繍を身に纏ひ美酒嘉肴に飽き、終日爲すことなく悠々日月を消費す如きは、長壽を保たんと欲するものゝ宜しく避くべき所にして一日と雖ども身躰の運動を忘るべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎煤煙の豫防法

絹にて製したるハンカチーフを水に浸し、顏の上を蔽へば如何なる燻りたる煙の中に在ても自由に呼吸することを得べしと（サイエンチフヒック、レビユー）に見へたり。

◎死亡と職業との關係

左の表は紐育「ヲクシデンタル、メジカルタイムス」記者の（醫士に對する生命保險の必用）と題する論文中に掲載したるものなり。

最近の衛生及「デモグラヒー」會議に於て、「ヲーグル」氏の報告せる所に依るに年齡二十五歳より五十六歳の間に死亡する所の各職業者の數を比較するに、大に差異を現はすものにして、宗敎家は其死亡數最も少かなり、今此宗敎家の死亡數百を基本として比較みるに他職業者の死亡數左の如し。

宗敎家	一〇〇、	醫師	二〇二、
政事家	一五二、	雜貨商	一三九、
農業者	一一四、	漁人	一四三、
商人	一五五、	舖商人	一五八、
蒸餅製造人	一七二、	鍛冶職人	一七五、
力役者	一八五、	裁縫職人	一八九、
齒工	一九三、	書記	一九九、
鑿石者	二〇二、	屠牛者	二一一、
鉛匠幷油漆師			二一六、
乘合馬車の御者			二六七、
礦夫			三三一、

右表を以て見るに、醫師の死亡數は他職業を採る人に比すれば甚だ大なるを知るに足ると成醫會月報に見へたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本會録事

◎九月總會　九月廿五日午後一時より本會の總會を京橋區宗十郎町七番地大日本私立衛生會集會室に開く、此日や天氣清朗日曜にも關はらず來會する者四十餘名、定時に至り半期間の會計收支決算及諸務の報告をなし次に役員の改撰規則の修正等をなし、多數に依て相決したる結果左の如し。

◎規則修正

一第五條を第二十九條とし、第六條を第五條に、第七條を第六條に繰り上げ、第七條の一ヶ條を設く。

一第七條本會に推戴員を置き、其中より總裁一名を奉す推戴員は　皇族の御息所等に之を申請するものとす。

一第八條中、　評議員二十名を置く。

一第二十四條中、　從來本會役員改撰は九月の總會に於て撰擧せしが、右は殘暑强よく爲めに會員出席數常に少數なるを以て、毎年三月を役員改撰の期と改む。

其他二三字句の修正あり右の如く相決したるを以て改正規則第七條に依り

今回　小松若宮御息所殿下を本會の推戴員に仰ぎ總裁に奉じ度由請願致候處早速御許容被遊候。

一總裁　　小松若宮御息所殿下

役員の改撰左の如し

一會長　土方かめ子
一副會長　濱尾さく子
一幹事　馬渡たま子
一同　村岡久野子
一同　中村はる子
一同　加藤つね子

一幹　事　西　喜代子
一同　中野ゑつ子
一同　北澤のぶ子

右の改撰あり終つて醫學士岡田和一郎君（實布的亞に就て）其傳染の恐るべきを説かれ次に醫學博士三宅秀君（血の話）と云へる演題にて血液經濟に就き演せられ終つて暫時休憩茶菓の饗應あり散會せしは午後五時なりき。

◎當日前會長加藤鈴子病氣の爲め欠席せられたり、氏は本會創立以來數年一日の如く、よく會務を総理し熱心に會長の責務を盡され、其偉功あることは本會今日の隆盛を見ても知り得へく、且諸君姉の熟知せらるゝ處なれば玆に喋々を要せざるなり、不幸にして近頃兎角勝れられず、今回撰擧之節にも豫て各位へ御斷りの次第もこれ有り、加之ならず昨年改撰の當時にも會長を辭退せられたるが、本年九月まで强いて、就任願ひ置き候事故、去廿五日総會の節には衆止むなく投票を見合せたり。

我儕は諸君姉と共に加藤前會長の壯健を祈り併せて玆に數年間總理の重任を負はれたる功勞を感謝して措く能はざるなり。

本會半年度收支會計報告

自明治二十五年三月至明治二十五年八月卅一日

收入之部

	圓	錢厘
一會費集高	一五四	四五〇
一前年度越高	四〇	九八五
一懇親會々費	三八	八五〇
合計	二三四	二八五

支出之部

	圓	錢厘
一會場費	一	二〇〇
一速記料	五	五〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一雜誌印刷	四六圓九三五
一郵劵幷端書	一五　五七〇
一諸印刷料	二　五五〇
一筆墨料	二　二〇五
一器具費	五　〇一〇
一事務員給料	三〇　〇〇〇
一雜費	九　一二二
一諸配達費	一五　〇〇〇
一懇親會入費	四七　六六五
一保育園補助金	六五　〇〇〇
合計	二四五　七五七

收支差引

一不足高	一一　四七二
三井銀行預金	
一總高	九三圓四十九錢三厘
一利子	二圓五十八錢六厘
合計	九六〇七九

明治廿五年八月卅一日現在會員數調

一總會員數　四百四十二人

內譯

一終身會員	十三人
一特別會員	十五人
一男子賛成員	五十二人
一地方會員	八十四人
一千葉支會々員	三十九人
一府內通常會員	二百三十九人

入退會者

一入會者	五十一人
一退會者	五十六人
一死亡者	三人

從明治廿五年三月一日至同年八月三十一日

保育園會計報告

收入之部

	圓	錢厘
一前年度殘金	五四	二〇三
一有志金	六八	一〇〇
一本會ヨリ補助金	六五	〇〇〇
一保育料	七三	一〇〇
合計	二六〇	四〇三

支出之部

	圓	錢厘
一借家料	九〇	〇〇〇
一保姆及乳母手當	三八	五四八
一器具料		八一〇
一雜費	四	二二五
一牛乳	六	三二〇
一食費	八八	三一八
合計	二二八	二一一
收支差引	三二	一九二

◉附屬保育園　同園は昨年六月設立以來本會の役員同園の主事特約醫員評議員等盡力せられたるも維持法の周からさると入園者の多からさるとに由り困難少からす之か爲め是迄相談會を開きたると屡にして本會の補助金と特に評議員の醵金とを以て繼續し來りしも去月十七日評議會を開き熟議の末多數を以て一時休園に決せり寔に遺憾なから亦止むを得さるなり

因に記す舊保育主事岡田みす子は本會以外に立ち一個人を以て保育兒依托者の依頼に應すべき計畫ありといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎動植物性營養品試驗成績

東京衛生試驗所技手平野猪之助君の施行せし動植物性營養品の分析成績は左の如し但し魚類は鱗腸骨頭を除き肉のみを試驗したるものなりと云ふ(官報)

第一　動物性營養品　百分中の成分を示す

品名	水分	蛋白質	脂肪	灰分
アコウ	八一、五一五	一七、一三五	〇、三七五	〇、九七五
帶魚	七二、七六五	一九、八四一	七、〇六四	一、三三〇
イナダ	七六、七五〇	二〇、八九九	一、一〇一	一、二五〇
鯔	七三、六〇〇	二一、九六八	四、二六七	一、一六五
ギンポ	七七、一八五	一八、二五九	三、〇九六	一、五〇〇
牛尾魚	七八、八六五	一九、六五七	〇、三三六	一、一三三
アナゴ	八一、五二〇	一六、七三〇	〇、五九五	一、一六五
海鰻	八〇、〇七五	一七、一四三	一、五七五	一、〇三五
河豚	七九、七七五	一八、七四一	〇、二九九	一、二三五
黄貂魚	七七、三三五	二一、四五三	〇、二九七	一、〇三五
田螺	七五、七七六	一九、一〇二	〇、五四七	四、五八五
西施舌	七九、二三〇	一六、六九〇	二、六三五	一、四五五
貝ノ柱	八〇、三七〇	一八、〇九〇	〇、二三〇	一、三三〇
糠鰕	七七、六八〇	一六、二七八	三、二五七	二、七八七
青花魚 醃臓	七五、〇〇〇	一六、一〇〇	二、八七〇	六、〇三〇
文鰩魚 仝	六六、三三五	二三、四六六	〇、九三九	九、六六〇
魚鹹 仝	五六、七五〇	二八、七〇九	六、五九一	七、九五〇
鱸 仝	四六、二五〇	二四、一四〇	三、九八五	一五、六二五
鰮魚	六三、六五〇	二三、四四六	五、六七九	八、二三五
田作	三、六八四	六九、二五一	一一、七五六	五、三〇九
鰕魚尾 佃煮	三八、七五〇	三八、八二〇	三、七二〇	二〇、七〇〇
海鼠腸	七二、四九〇	八、八三六	二、六八七	一五、九八七
ハンペン	七七、一六〇	六、六一六	〇、三三〇	二、二二五

無窒素物 一三、七四九

第二　植物性營養品　百分中の成分を示す

品名	水分	含窒素物	脂肪	無窒越幾斯物	木繊維	灰分
鶉豆	一四、五七〇	一八、九〇〇	一、一六〇	五七、七五〇	六、四六〇	一、一六〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

燕麦(カラスムギ)	一〇、四〇四	一三、五三七	四、一八〇	六六、九一九	四、一六〇	一、八〇〇
蠋黍(ヒロコシ)	一三、一〇〇	一〇、五〇〇	三、六二〇	六六、三九〇	六、二八〇	〇、一一〇
玉蜀黍(トウモロコシ)	一五、〇五〇	九、四五〇	三、五二四	六六、六五六	三、〇八〇	二、二四〇
菠薐(ハウレンサウ)	一三、七四〇	一三、六五〇	五、三八〇	六四、九四〇	三、一七〇	〇、一二〇
麻ノ實(アサノミ)	九、九八六	二一、一七五	二四、五六〇	一三、九〇六	二九、三三八	二、〇四五
菊花	八六、六四五	一、九二六	〇、〇三七	八、七九九	二、五四二	〇、〇五二
紫蘇巻唐辛(シソマキ)	六四、〇九〇	二、八八七	〇、九七一	六、六三七	三、四三〇	二一、九八五
酢漬薤(スヅケラツキヤウ)	八五、九〇〇	〇、九三七	〇、〇七六	七、八五六	〇、三三五	四、九〇四
塩漬生姜(シホヅケシヤウガ)	七五、三三五	〇、七八七	〇、三一九	一三、五八〇	二、〇八九	八、〇〇〇
塩漬李(シホヅケスモヽ)	八〇、八三五	〇、〇五七	〇、〇六三	五、七九五	二、五一五	一〇、七三五
塩漬梅(シホヅケウメ)	七〇、七二五	〇、〇七九	〇、一八三	八、九四八	一、六一五	一八、四五〇
粕漬白瓜(カスヅケシロウリ)	七二、二一〇	二、六五〇	〇、〇四三	一八、七九六	〇、七〇九	五、五九一
味噌漬大根(ミソヅケダイコン)	六二、〇三〇	六、一四〇	〇、一九〇	一六、五三〇	二、二三〇	三、九〇〇
醴(アマザケ)(軟煉)	六三、〇七〇	三、五〇〇	—	三三、三九二	〇、七五三	〇、二八五
生揚(ナマアゲ)	七八、六六〇	一〇、二八〇	八、二〇〇	二、〇三〇	—	〇、八三〇
貫錢欵(カンセイノ)	一三、五九〇	二五、八八〇	一、五一〇	五八、五一〇	—	一、五一〇
昆布巻(コブマキ)	六七、五一〇	二、六七〇	〇、一八	二四、九二〇		四、七二〇

廣告

本會附屬保育園都合により九月限り一時休園す此段廣告候也

明治二十五年九月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌
編纂委員 太田いく子
鈴木まさ子

明治廿五年十月十九日印刷
明治廿五年十月廿

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人 東京麹町區三番町六十七番地
巖本善治

印刷人 東京麹町區上二番町十八番地
八木吉六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN